

犬との共生ってステキ

鍼と温灸でもっと豊かな時間を



ペット鍼灸セラピー協会 鍼灸師 蛇場美 香 ~いぬのつぼにちょっと詳しいです~

はじめに

犬・猫の飼育放棄問題。
理由は複雑だが、「可愛くなくなった、犬や猫が病気になった、高齢になった」なども目立つ。

ちなみに、2021.4.1~2022.3.31の統計で、飼育放棄で保健所や動物愛護センターに引き取られた犬猫の数は、58,907頭。*殺処分の数ではない
(データ参照 環境省自然環境局)

ここでは、飼育放棄に注目するのではなく、「終生共に暮らす」ことを目的とした、家庭でできる鍼と温灸で、簡単で有効な養生法(犬の場合)を紹介する。

小児はりや温灸の応用

小児はりは、専用の鍼具で、優しく皮膚をさする、トントンと当てるだけの施術。
刺激はとても心地よく、リラックスできる。
自律神経症状、夜泣き、便秘、消化不良、夜尿症などを改善。

温灸効果は、痛みの緩和、筋・関節の不調の改善、血行促進、免疫力増強、タンパク修復機能など。



ローラー鍼



電子温灸など



*お灸は、火の取り扱いが怖い、火傷の心配、煙が苦手などの理由から避けがちになるので、ここ最近、電子温灸を導入している

こんなシーンで「パピー期」

犬にとって、心身ともに、様々な刺激や経験を必要とする時期、そのため緊張も多い時期。
リラックス、スキンシップ、病気・怪我の早期回復、リハビリにローラー鍼の施術をする。
またこの時期は、消化不良を起こしやすい犬もいるので、その時は温灸も追加。



脊髄損傷で、再生医療を実施。直後から、リハビリにローラー鍼



初対面でも、すぐに仲良くなれる

こんなシーンで「成犬~シニア前期」

アジリティなどの運動後のクールダウン、長期にわたる治療の補助的なもの、ハイシニア期の準備としてなど、多くのシーンで。ローラー鍼と温灸を組み合わせた施術をする。



8歳、アジリティをまだまだ現役で続けたい



もう生えてこないと言われた皮毛が、小児はりでトントンしたら生えてきた

こんなシーンで「ハイシニア期」

一般的には10~12歳を超えるとハイシニアと言われているが、最近は寿命が延び、15歳以上の犬もよく見かける。

10~12歳を過ぎた頃から、免疫や代謝が落ち、不調も多くなる。穏やかな日々を送ること、認知症対策、緩和ケア、そして一番大事な最期のお世話の時間に、ローラー鍼や温灸の回数を増やす。



18歳



19歳(もうすぐ20歳推定ですが)

まとめ

家庭でも簡単に行える鍼灸や、適切な栄養、運動を取り入れることで、犬や猫の生活の質が向上する。これにより、大切な家族である犬や猫と共に生きる約15年~20年間で豊かに、そしてより幸せな時間を共有することができる。